

第八回 神戸文学賞受賞作品

連載小説〈最終回〉



題字・服部洋介

昔の眼

服部洋介 絵／貝原六一

父親は、実の母親とは違う女との間に二人の子供を作り、その子供達とは親子としてくらしている。小学校三年と幼稚園に行っている「弟」と「妹」を恵子はかわいらしいと思った。かわいいという気持ち以外に何もなく嫉妬する気も別に起らなかつた。

彼氏は

「なんだよ、あれでも親かよ。自分の子供ほっておいで、のうのうとくらしてさ。僕だったらそんなこと絶対しないよ」

と力んでいたが、彼氏が力めば力むほど恵子は白けてきた。彼氏も、もしかしたら養育費くらい、おどして出させてやろう、くらいのことを思つていたかもしれない。あるいは単純に

「僕なら恵子を不幸にしないよ」

とでも言つたかったのかもしれない。恵子の中からは、こういう種類の不幸が、すっかりと整理されてしまつているのだろうか。俺にはそれが信じられなかつた。

その夜も、昨夜と同じように愛撫がはじまつて、さて、よいよと思い、俺がこそそと枕もとにおいてあつた避妊具を取り出してつけようとする、また、

「そのままにして。でなければいやよ」
と言つて拒んだ。運を天にまかせて、妊娠しない方にかけて抱こうとしたが、俺自身の昔の眼が思い浮び、ひんがらめのまだ見ぬ子に、にらまれて、何ともだらしなうことだらうか。それとも、いわゆる不感症というやつ

い姿で萎えてしまつた。

「あかん」

「だめなの」

「気が狂いそうや」

「生むのは私よ」

「生まれるのは俺の子や」

「そうはいくか」

「いいじやない」

俺は一枚だけ、東京にまで手術をする以前の写真を持ってきていた。自分の黒ワク写真を見るよりもおぞましいものであつた。俺自身の被膜をはいだ赤肌のように我ながら痛々しかつた。よほど、その一枚を彼女に見せてやろうかと思つたがやめた。俺は未だにその写真を正視できないのだ。

恵子は一体、俺にとつて何なのだろうか。恵子との関係を永久に続けたいと思っているのかそうではないのかさえもわからなかつた。自分でも何故あんな写真を持つてきたのかわからなかつた。ガーゼでおさえた傷口を、時々はがしてながめたくなるのと同じ気持ちなのだろうか。恵子は寝息をたてて眠つていた。女というのは途中で行為を中断すると不満を感じるものだと通俗小説なんかには書いてあつたが、恵子の場合はどうなのだろう。男をよく知らないということだろうか。俺がはじめてといふことだらうか。それとも、いわゆる不感症というやつ

なのだろうか。明りを消した部屋で一人悶々として酒を飲み続けた。時々、隣りの部屋のトイレの水を流す音が聞こえる。子供の泣き声が聞こえる。咳込む声が聞こえる。外で酔っぱらいのわめく声が聞こえる。へたへたとスリッパの音をひびかせて足ばやに歩く人の足音が聞こえる。二度ばかりトイレで吐いた。吐瀉物の中に未消化の夕食のおかずがまじっていた。

翌日は二日酔いで起きることができず、昼過ぎまで眠っていた。血液が眠っている間に何か別の液体に変わってしまったよう重たかった。部屋の中に、まだ、アルコール分が漂っていた。アルコール分にまじって、香水の匂いがかすかにした。女がいれば、それだけで空気がにごる気がする。起きあがり台所で冷たい水をたて続けに三杯飲んだ。重くなった血液が、多少は薄まるのではないかという気がしたのだ。窓からさし込む光の中で舞うほこりがひどく気になつた。ズボンのすそを見ると、昨夜の吐瀉物の残骸が乾いて、へばりついていた。胃の表皮が一枚すっかりとはげてしまつたように、きりきりと痛み、何も食べる気がしなかつた。寝ころがつたままで外をながめると、ガラスが油に汚れて、太陽の光を半分くらいにへらしているように見えた。太陽の光は半分にへつても、まだ、十分まぶしかつた。

考えてみれば、もう一週間近く大学の講義に出ていなかつた。それでも、一人の友人も心配して訊ねて来ない、といふのが俺の学生生活をよく表わしていた。大学に入つて間なしの頃、東北地方出身の男が、俺の横に座わり、何かと話しかけて来たことがあつたが、彼が何を言つているのか、ひどいなまりのせいではわからなかつた。言葉がよくわからぬまま、聞き返すのも悪いと思い、生返事ばかりしているうちに、ばかにされたとでも思つたのか、その男は俺のそばに近よらなくなり、いつの間にか大学へも来なくなつてしまつた。その時も、彼がいなくなつても、誰も何も言わなかつた。その後、一度だけ

神田の古本屋で見かけたことがあつたが、ドイツ語の原書を手にとつてながめていた。ひげがはえ、髪ものびていたため、俺に気がつかずに、かなりぶ厚いの一冊買つて、とぼとぼと歩いて行つた。

「今の人、何を買つて行つたの？」

「ニーチェだよ」

店の人はそう答えた。まだ第二外国語のフランス語で数を十まで書くことのできなかつた俺は驚いてしまつた。実際に読んでいるのかボーズなのかわからなかつた。ただでさえ色白だった顔が、病的なほどやせて、青ざめて見えた。しかし、俺は、彼に声をかける気にならなかつた。

俺は三時頃まで横になつて天井をながめていた。それからパジャマを脱ぎ、洗濯することにした。ビニール袋にため込んだ洗濯物をボリバケツにあけて、洗剤をたっぷりと入れ、手で洗いはじめた。その中に恵子の下着も何枚かまじつていて、わざわざ取り出してみる必要もないのに、つい気になつてしまつ。白一点張りだつた自分一人の時の洗濯とは違つて、薄いピンクであつたり花模様がついていたりする。

「ヒモの生活でこんなもんやろかな」

ヒモの大切な条件の一つである夜の生活に満足を与えるという点に関しては、俺は何もしていなかつた。洗い終つて、洗濯物を干そうと、一つずつしほつていて、ブラジャーの下側に入つて、ワイヤーが飛び出しているのが見つかった。それが何だかひどく生々しく感じられた。恵子と俺との間に横たわる一線を未だに越えることができていながらもかかわらず、生活の匂いが立ち込めはじめていた。ただでさえ隣近所のうるさい噂に耳をふさがねばならぬ中で、外に女物の下着を干すのがはばかられたので、部屋の中に洗濯ひもをわたして干すことにして。男物の下着は部屋を暗くするだけだつたが、女物は隠微にはなやいで見えた。洗濯のあと、そうじをはじめた。そうじなんて、もしかしたら東京に出て来ては

じめてではないだろうか。窓をふき、床をふき、トイレもみがいた。ガラスのむこう側の世界があからさまになるにつれて気分は憂鬱になってきた。光がふえれば、陰が目立つのだ。

俺の眼は、外界の事物に視点をあわせた時には、よく見える左眼が存分に働いて一つに見えるのだが、何か考えごとをするに必ず一つの物が二つにわかれる。今まで、眼の前の景色が二つにわかれた。体制も反体制も虚構も現実も、具象も抽象も、すべてが同時に存在しうるのだ。部屋の中には二本の洗濯ひもに二倍の洗濯物がぶらさがっている。片方の洗濯物は、単なる物質にすぎないのだが、もう一方は肉体のぬけがらであった。アッシュユーピットには人間の頭皮で作った電灯の傘があったというが、それと同質の物がそこにぶら下がっているような気がした。男と女が住むのは、ひどく残酷な行為だった。すべてがむき出しになるのが残酷なのではなく、新たな生命を生み出すことが残酷なのだ。

それにしても、木の根は土の中にあるが、人間の根はどこにあるのだろうか。妊婦の体の奥には確かに球根のような胎児が横たわっているのだが、生まれてしまふと、母体から切りはなされ、残るのは、単なる穴にすぎないのだ。それにもかかわらず、俺は、かなり長い間、眼には見えぬ根のようなものを、ずるずると引きずつて生きてきた。今だってそうだ。その根を信じれば信じるほど、やがて生まれてくるかもしれない子供に対する恐怖はつのつて行く。俺の皮膚のどこから這い出た根が子供にむかってのびて行くのかと思うと、それだけでうんざりとし、気味が悪くなってしまう。

考えてみれば、俺の恐怖というのか不安は自分が親に向かへた視線を受けたくないという卑怯者の表われに他ならないのだ。しかも、子供の眼に二人の俺が見えているとすれば、俺は自分といふものから一步も脱出していない。その点、恵子は、俺以上の不幸を背負っているはずなのに、一向に動する気配なく、堂々としている。男と

女の差なのであろうか。女の生理について考えをめぐらせるうちに、次から次へと様々な妄想が俺の頭の中をかけめぐった。

男が妊娠する。男であろうがなかろうが、妊娠するはずのない者が妊娠する。たとえばこの俺が、つき出た腹をかかえて荒野に立っている。カミユの「異邦人」の中に出でてくるような、度をすごしてまぶしい太陽をながめているうちに、めまいとともに激しい陣痛におそれ、痔になりそうな勢いで、シャーッとピンク色の液体がほとばしり、足もとに小さな水たまりができる。続いて、尻の穴からボトツ、ボトツ、ボトツ、と確かな質感をしているうちに、めまいとともに激しい陣痛におそれ、痔になりそうな勢いで、シャーッとピンク色の液体がほとばしり、足もとに小さな水たまりができる。続いて、尻の穴からボトツ、ボトツ、ボトツ、と確かな質感をして、と座り込んでいる間のぬけた顔をした女（恵子ではなく一般的な女）をにらみつけ、おごそかな声をして、「この子らを、これより『優』『学』『強』と名付ける」と傲然と言ひ放っているのだ。妊娠し出産するという特権を奪われた女は、ただひたすら平身低頭して恐縮しているだけであった。妄想の中とは言え、優しい子、学問のできる子、強い子というのは何と月並みな願いなのであろうか。まさに呵々大笑。一人の人間にもしも三つの物が同時にそなわっていれば、確かにすごいことなのだろうが、優しいだけの子、学問ができるだけの子、強いだけの子では生きて行く上に、かなり不便なことであつたが、何故だか知らぬが、とつさにそんな言葉が口をついて出てしまったのだ。

実際に、自分が女でないためかもしけぬが女と仮定した上ででの妄想の中にも救いはなかつた。俺は、眼の前に下がつた恵子のパンティを手に取つた。ただでさえ薄っぺらな上に、しめつているため、手のひらにはりついで生命線や感情線まですけて見える。俺はその読み方を知らない。読んで運勢がわかつたところで何になるのか。俺はズボンを脱ぎ、パンツも脱ぎすて、恵子のパン

ティーを身につけた。ヒップのサイズが一メートル近くある俺には、当然のことながら小さすぎて、すべてがおさまりきらなかつた。俺は今、一体、何を考えているのか、自分でもわからなかつた。薄い桃色をしたパンティは横に精一杯にひろがり、一本の包帯のようになつた。そう言えば、女の性器は、ぱっくりと割れて、まだかわききらぬ傷口のように見えぬこともない。俺はしばらくそんななかつこうのまま、部屋の中を歩きまわつた。

俺は誰なのだ。恵子は俺の素顔を知らない。俺も俺の素顔を失つて久しいために、俺自身の素顔がどうであつたか、本当のところ覚えてはいない。覚えているとすれば、それは現在の俺が、ひんがらめの子供に対して持つてゐる露骨な偏見なのではないだろうか。俺自身が受けた屈辱の記憶などではなく、俺自身の差別意識ではないだろうか。そんな気がする。

遠い記憶のかなたに、まだ十代だった父の妹が泊まりに來た時、扉のすき間の闇の中で下着を脱ごうとして、バチバチと音をたてて青い静電気の閃光が放たれた光景が思い浮んだ。異性への想いの原点だつた。近所の女子中学生にあこがれ、声をかけることができず何度も家の前を行き来し、部屋の前にかかつた洗濯物を盗みかけたことがあつた。そのブラジャーからも金属が飛び出していた。異性へのあこがれがすこしゆがんだ。俺の記憶には、まともな恋愛らしいものがなく、やいびつなものばかりであつた。俺には、異性に対するおびえとともに、普通の恋愛は許されないので、という思い込みがあつた。相手の眼をまっすぐに見つめることができぬため、自分の全身をさらけ出すことが不安だつたのだ。恋愛の行きつく先が、新しい生命の誕生ということに、かなり昔から恐れていたのも事実だつた。

恵子が持ち込んだ鏡の前に立つた。そこにうつった俺の姿は異様で不気味だつた。鏡にうつった時計を見ると五時四十五分を指していた。恵子をはじめて見かけたカット・ショップの時計は、鏡に映ると正しい位置に針と

文字盤が見えるように作られていた。鏡に顔を近づけると、時々そんな風になるのだがその角度のせいか、眼がかつてのひんがらめに戻つて見えた。俺は、その都度、しばらく眼を閉じてから、顔の位置をかえて眼が普通の位置に来るよう修正しなければならなかつた。

「今日はどうしてたの」

「部屋の中を見たらわかるやろ」

「うわあ、やあね。まさか、手で洗つたんじゃないでしょうね」

「コイン・ランドリーに行つたんちやうで。一枚一枚確認しながら洗つたんや」

恵子の顔には、今まで見せたことのない羞恥の色が浮んでいた。

「綺麗になつとるはずや」

俺は残酷に、そしてしつこく恵子をいじめてやりたくなつっていた。人をいじめてみたかつた。人が何をいやがるかについて、ひどく敏感なのだ。

「ほら、みてみい。ええ匂いするわ」

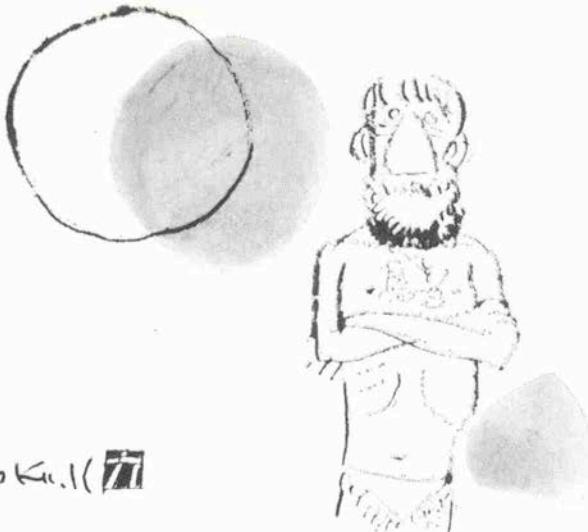
ひもにかかつた一枚を手にとり、自分の鼻におしつけて深呼吸した。

「洗う前の匂いも格別やつたけど、洗つてからのも、仲々のもんや。こないして頭にかぶつて部屋の中、走りまわつて二日酔いの汗出しどつたんや。洗わんと、そのまま持って行つたら、ええ値で買うてくれる、けつたいなおっさんがおるねんけど、俺は恵子のことものすごうに愛してるから、それだけはやめといたわ」

自分で自分の口に出している言葉に気分が悪くなつてきた。みじめだつた。みつともなかつた。卑屈だつた。ばかばかしかつた。俺はトイレにかけ込んで、また、吐いた。朝から何度か吐いていたので、もう出る物もなかつた。すっぱい胃液が、たんにまじつて出てくるだけだつた。はじめて精通のあつた時（というより、はじめて

この手で自分のペニスを犯した時) 黄色味を帯びて、にこつた膿のような液体が、何の快感も得られぬまま、ズボンの間に屹立した。ペニスの先端のさけ目からもりあがるようにして出た。今吐いた胃液の色と、その時の精液の色とが重なった。そして精液の匂いとトイレのそうじに使う漂白剤のまじった洗剤の匂いとが重なった。俺は体の中に膿をたっぷりとかえていた。膿の中には、資本家があり、労働者がおり、革命家があり、反動政治家がおり、聖職者がおり、殺人者も、医者も、弁護士も、娼婦も、天才も、狂人も、ゴーリード・メダリストも、ありとあらゆる人間の種子があるのだ。そして、そのどれもが、俺の、最も忌わしい特徴を伝える遺伝子をそなえつけっていた。

人間が生物であることを拒否すれば、やがて世界は、ほろびるであろうし、生物であることを受け入れたな



180 KU.1(7)

ら、やはり、ほろびることの苦しみを味あわねばならない。いずれにしても絶望しかないなら、どちらをとるかだ。絶望しようが希望を持とうが、死んでやろうと思う時には生きていなければ意味がないのだ。

「飯はまだか」

何も言わず、黙ったままの恵子に言った。恵子の後姿を見るのが急につらくなつたのだ。俺の弱さだった。俺は沈黙に耐えることができなかつた。

「俺が作つたろか」

彼女は返事をしない。

「ヒモは料理くらいでけんとあかんからな」

「もう、いいわよ」

恵子は急に立ちあがり、小さなバッグを持って出て行つた。バッグには金と化粧品が入つているのだろう。着がえも持たずに出たからいはずれは戻つて来るかもしれない。部屋の中に大きな空白ができた。俺は包丁をおいて切りかけのキャベツを手にとり、一枚ずつむいて紙くずでも丸めるようにして、ぱりぱりとかじつた。虫になりたい。虫にでもなれたら、と思った。犬畜生などと言うが、再び生まれかわるとしたら、人間などではない方がよいと、思った。人間として存在することの方が虫になるより残酷な気がした。人間として犬畜生になり下がらくぶらぶらし、さらにニヨロニヨロのびたと思うと、前にいたメスの上にとびのり、腰を動かしはじめた。先生はおろおろ、生徒は大喜びだった。人がその行為を秘め事などと言うのは、一年中のべつまくなしだからに違いない。年に一度、春だけのことなら恥じることもないのだ。動物なら、どんな風に生まれたとしても差別したりしないだろう。人間の頭のように見えるキャベツの

まん中に包丁をつき立てた。出るはずのない血が、ぱつとふき出るような気がした。俺がつきさしたのが頭ではなく、地球でもよかつたのだ。マグマがふき出し、上を火の海にしてもよかつたのだ。俺がさしたのは誰の頭なのだろう。眼をえぐり、皮をはぎ、こなごなに切りきざんだ。

俺も外へ出た。ポケットに、ありつけの金と、コンドームの箱をつつこんだ。体の中には、いら立ち、眼のつりあがった精子があふれ、精子は、俺の昔の眼をゴシゴウダインにかかえた遺伝子をたくさんかえ込んでいた。父が、母が、そのまた父と母が、それこそ神代の昔からゴシゴウダインにおろかなほど忠実さで引き渡し続けてきたものではないか、という気がした。動物なら定期的に発情し、定期的に交尾して、何の疑問も抱くことなく、リレー競技のバトンながら、營々と遺伝子の受け渡しの作業を行なうに違いない。オトナになるのに時間のかかりすぎるのも悲劇の一因なのだろう。

商店街の店にあるショーケースには、ほとんど何も残っておらず、店の前には水がまかれはじめていた。外は暗く、南側にならぶ店の電灯だけが明るかった。買物客はそれぞれの家々に消えて、仕入れた晩飯の材料を、愛情をこめ、工夫をこらして加工しているのだろう。そこには、様々な形態のイッカダンランがあつて、様々な遺伝子が肉体に仮住まいして様々な人間の形に化けて、様々な会話をかわしているのだろう。

「それだけのことやないか」

どこから悟りきった声が響いてきた。恵子は、そういう人間の使命みたいなものをいわば動物としての本能に根ざしたものを見、ごく自然にとらえ、受け入れているのかもしれない。不幸な遺伝子というのは、不幸な管を通るようになっているのだろうか。それとも、不幸な遺伝子は通過する管をも不幸にするのだろうか。何だから、今夜は悲観的なことばかり考えなくなつた。俺は、

昔の眼にこだわるあまり、自分の「悲劇的」な過去ばかり思い出して、ゼントヨーヨーした未来を見失い、世の中の動きというのを見なくなつていた。

ふらふら歩くうちに、つい、このあいだ、女を買うつもりで立っていたのと同じ場所にやつてきた。あの時と、何も変わらぬ景色がそこにあった。一体、この数週間に何があつたのであろうか。町を歩いていると、時々、この光景は、いつか夢に見たのと同じではないかと思いついたことがあるが、今の俺も、夢の中に見た世界に行きあつた感覚だ。夢ではないことは確実なのが、実に妙な具合だった。ただ、夢のような数週間前と違うのは、聞のかなから制服姿の恵子が歩いて来るのではないかと思っていることであった。

(完)



『昔の眼』の連載を終えて

服部 洋介

授賞式で毎日書かねば書けなくなっているという話をしたが、今はその毎日何かを書く事を自分に課している。発表しようがしまいがとにかく書かねばならぬと思っている。十年一昔という言葉があるが、一つの体験を客観的にとらえられるまで十年近くかかる気がする。最初に小説を書いたのは十九歳くらいであり、その時は幼年期を書いた。そして少年期、青年期序盤とでも呼ぶべき大学時代へと設定が移って来た。今も学生時代を書いているが、そろそろ社会へ出てからの自分へと筆を進めたいと思っている。こうしてみると、小説に表われる人物が自分そのものではないにしても、私が一番興味のある対象は自分という人間ではないかという気がする。歴史上の人物を追求するのも、自分にこだわるものも、有名無名の差はあっても同じ行為だと思う。殺人者でも女でもどこかに自分の一部が宿つてしまふ、とにかく作品が日の目を見るのを待ちながら、毎日筆をとり続けるつもりでいる。

端午の節句は家族団欝で京料理を



御菓子処、高山堂は創業明治二十年の老舗で、竹本昇一氏は三代目。ピカピカの小学一年生、洋平君を中心に端午のお祝いに、家族揃って、西宮の自宅からも便利な“芦屋わらびの里”へ。
右より竹本たすきさん、孫の重未ちゃん、竹本昇一株式会社常務取締役、洋平君、竹本純子さん、竹本清二株式会社常務取締役部長)

京料理 わらびの里

芦屋店

芦屋　打出小堀町30
（0797）23-5666
営業時間　午前11時～午後10時（駐車場有り）
京都本店　京都・山科区小山中島町28
新宿店　東京・新宿区西新宿2の4の1
（03）349-87789



スポーツはすべて基本から

スクール生募集中！



教室案内 / 剣道・杖道・居合道・空手道・合気道・少林寺拳法・太極拳・ヨガ・クラシックバレー
・ミニバスケット・親子体操・幼児体操・婦人体操・バトントワーリング・小学生体操・ジャズダンス

まいあがれスポーツ

SPORTS CLUB ROKKO

六甲体育馆



入会申込み受付中 入会金3,000円、年会費3,000円

お問い合わせ・お申込みは 神戸市灘区新在家北町2丁目

☎078(841)1084



神戸のうまいもんとドリンク

★日本料理

讃岐名代うどん あこや亭
中央区旗塚通7-1 ☎ 331-6300 トアロード店 ☎ 391-2538
兵庫駅前店 ☎ 575-5306 住吉店 ☎ 453-3737

北海道郷土料理 蝦夷
中央区中山手通1-4-13 ☎ 331-7770
東門筋東口会館ビル1階

和食くれな
い
三宮生田新道浜側中央K.C.Bビル2F ☎ 331-0494

料亭 布引大しま
中央区熊内町4-8-19 ☎ 221-1945

たこ焼 たちばな
三宮センター街(旧柳筋) ☎ 331-0572

民芸軽食専
店 焼きステーキ 五事
元町3丁目山側 ☎ 391-3156

山菜料理 六段
国鉄三宮駅山側 ☎ 231-0406

トリドリトリドリ
中央区北長狭通2-5-1 ☎ 391-3028
ダイシングサンセットビル

そば打ちうどん 木曾路
ラーワード市役所前KEビルB1 ☎ 231-1295

断花銀
中央区二宮町3-10-16 ☎ 222-2323

どじょう吾作
中央区元町通2-7-20 ☎ 321-0539

鍋・しゃぶしゃぶ 三十三間堂
神戸ワシントンホテル2F ☎ 331-6111

割烹銀座
神戸ワシントンホテル2F ☎ 331-6111

甘党とばさら茶屋
阪急三宮西口山側レインボープラザ1F ☎ 321-6363

大衆割烹 菊
中央区中山手通1荒神ビル3F ☎ 331-2878, 332-3365

手打そば凧る庵
市役所花時計北・ハニービルB1 ☎ 331-0260

★各国料理

レストラン グリル アコ
中央区生田町1-4-2F ☎ 242-2020F

レストラン 麻婆 皮くあらかわ
中央区中山手通2-15-8 ☎ 221-8547-231-3315

ステーキハウス グリル 青山
中央区下山手通2-14-5(トアロード) ☎ 391-4858

スカシティナリ料理
と世界の食文化研究会
中央区山本通3-1-2 回教寺院前 ☎ 242-0131

佛蘭西料理 果林
神戸プラザホテル2F(元町駅南) ☎ 331-4558

すていきハウス 長崎
神戸市中央区布引町2-3-16 ☎ 221-1086

レストラン 花扇
中央区元町通1-3-6 Lビル2F ☎ 331-8911

メキシコ小料理亭 ティファーナ
中央区中山手通1-21-13 ☎ 242-0043
パールコロナスピリット1F

ビザ・バブ ピザ・バテオ
中央区元町通1-10-4(元町1番街) ☎ 331-9378

フランス料理 ピストロドウリヨン
中央区山本通2-13-6 ☎ 221-2727

フランス料理 麻布キャンティ
中央区北野町4-1-12 黒人館俱楽部 ☎ 222-5380

maison de la mode 花屋敷
三宮ラーワード市役所前 ☎ 251-2109

ボリネシア料理 海賊 フィッシュヤーマンズポート
神戸港第4突堤ポートターミナル ☎ 331-0301

レストラン フック東店
中央区栄町通1-2-14 ☎ 321-3207

シーフードバー ムニークルーズ
三宮・生田筋 ☎ 331-8980

喫茶・レストラン カフェパウリスタ
三宮・トアロード(パウリスタビルB1) ☎ 391-0061

ステーキハウス れんが亭
中央区下山手通2-5-5 ☎ 331-7168

BARBECUE & STEAK 六段
中央区元町通3-8-4 ☎ 331-2108

レストラン フック神戸店
中央区栄町通2-9-11 ☎ 321-3453

サンバと
ブラジル料理 コパカバーナ
中央区中山手通2-1-13 ☎ 332-6694, 6697

ドイツレストラン ハイデルベルグ
中央区山本通2-8-15 ☎ 222-1424
ロースタークーラー2F

シルクロード料理
スパイスクitchen ぶはら
三宮町2-3-9 タキビル2F ☎ 331-1734

The grill BOBくぼづトアロード西山側
中央区北長狭通3-1-2 ☎ 392-2500
ファーストバブ2F

神戸ビーフ登録指定店 和黒くわっこく
中央区中山手通1-24-1 ☎ 222-0678
ヒルサイドテラス1F

炭やきステーキ 凱旋門
中央区下山手通2-10-4 新道ビル1F ☎ 392-3655

スコッチ &
ローストビーフ ガスライト
神戸ワシントンホテル9F ☎ 331-6111

フランシスコと
スペイン料理 エル・パンチョ キタノ
中央区北野町3-2-4
アンドル・マシヨン1F

中国料理 萬壽殿
中央区中山手2-20-4 ☎ 231-4531

フランス料理 ルー・サロメ
中央区中山手2-3-7 ☎ 392-1251
第二6番門亭1F

北イタリア料理 ベルゲン
中央区山本通2-3-2 ☎ 241-6952

炭火ステーキ 水野
中山手通1-32-5 ベンシルビル1F ☎ 241-7500

炭火焼肉 キムズギヤラリー
中央区山本通2-3-19 ☎ 332-2900
ローリー・マンション中山手1F

ステーキハウス 伊藤
中央区御幸通7-1-20 大信ビル8F ☎ 232-3031

レストラン GOONIY(炭焼ステーキ)
中央区北長狭通3丁目 ☎ 321-3540

炭焼ステーキ フランス料理 GOONY KITANO(ゴニー)
中央区北野町4丁目 ☎ 242-2562

KUSIKATU 花串
中央区三宮町2-9-2 ☎ 391-2617

フランス料理 シャンテクレール
三宮ターミナルホテル4F ☎ 232-1682

フランス特場料理 トウルドール
中央区萬葉山公園展示台 ☎ 241-0168

ステーキ & 神戸館
中央区下山手通2-2-9 ☎ 321-2955
アマフィル1F

広東料理 神戸元町別館牡丹園
元町通1丁目協和銀行北側小路西入る
☎ 331-5790, 6611

★喫茶

喫茶ガーデニア
中央区東町113-1 大神ビル1F ☎ 321-5114

喫茶カフェ・ド・ガーデニア
中央区三宮町3-8 大和ビル ☎ 392-4004

LE CAFE ガレ
中央区下山手通2-3-14 ☎ 242-7144

宮水のコーヒー にしむら珈琲店
中山手店・中央区中山手通1-26-3
☎ 221-1872-231-9524

三宮店・国鉄三宮駅前
センター街店・中央区三宮町10-27 ☎ 391-0669
北野店・山本通2-1-20 ☎ 242-2467
(会員制) 3F事務所 ☎ 242-1880

ピアノホール パックスステージ
中央区三宮町1
サンプラザ10Fサンロイヤル

珈琲モーツアルト
中央区山本通2-6-11 ☎ 241-3961
グランドマンジョン1F

サンドイッチハウス ココアココ
中央区加納町4-7-11 ☎ 392-4031

珈琲店 ん
中央区三宮町2-9-6(トアロード) ☎ 391-1589

喫茶館 英國屋
神戸国際会館前 ☎ 251-4562

喫茶館 葡萄屋
三宮センター街3丁目 ☎ 391-9006

喫茶館 仏蘭西屋
三宮・ラーワード(神戸市役所前) ☎ 232-4643

デザート喫茶 ぶどうの木
三宮・ラーワード(神戸市役所前) ☎ 251-3231

レストランバー デューク・ウェリントン
中央区北長狭通2-6-6 (トアロード) ☎ 332-1125

ヴィーン菓子 モーツアルト神戸
中央区布引町2-メゾンロージュ1F
姉妹店・モーツアルト三宮 神戸国際会館前 ☎ 242-3001
251-3616

茶房ナイト
中央区下山手通6丁目2-7 ☎ 341-7376

喫茶モンブラン
ラーワード市役所前KEビル1F ☎ 231-3605

ローテ・ローゼ
中央区北野町4-9-14 ☎ 222-3200

コーギー カフェ・ド・パリ
ラーワード市役所前KEビル2F ☎ 331-6111

TEA ROOM & LITTLE SHOP ファミリア北野坂ハウス
中央区北野町2-8 ☎ 222-3535

喫茶チヤロ
中央区中山手通1-24-10 ☎ 241-5470

コーヒーラウンジ City of City
中央区三宮町3-9-1 ☎ 331-1117

ティー＆スナック エボック
中央区元町通3-8-8(浜側) ☎ 331-3694

喫茶テルミニ
中央区国鉄元町駅構内 ☎ 332-1682

炭火焙煎珈琲 珈琲俱楽
神戸市中央区北長狭通1-10-6(生田筋)
ムーンライトビル1F ☎ 332-2016

炭火焙煎珈琲 萩原珈琲店
神戸市中央区中山手通2-21-3 ☎ 222-1457

★CLUB

club飛鳥
中央区中山手通1-2-6 ☎ 331-7627

club小万
中央区東門筋島ビル3F ☎ 391-0638-4386

Member's Lounge 異人坂
中央区北野町2-9-22(三本松不動北) ☎ 222-2001

clubさち
中央区下山手通2-17-13 ☎ 331-7120

クラブ千
中央区下山手通2-12-6 ☎ 391-1077

clubななぎさ
中央区北長狭通2-11-2 ☎ 331-8626

クラブるふらん
中央区山手通1-3-1 ☎ 331-2854

club Moon Light
三宮・生田新Club ☎ 331-0157 Bar ☎ 331-9554

clubコトブキ
中央区三宮本通り ☎ 331-1875

★STAND & SNACK

レストランBAR 薔薇園
中央区北長狭通5-5-22 ☎ 351-4311

サロントロット
中央区山手通1-22-10 ☎ 231-3390
大和ナイトプラザ2F

LOUNGE パルテノン
中央区加納町4-8-13高橋ビル3F ☎ 391-4123

Theater pub トム・キャンティ
中央区下山手通2-8-2 ☎ 331-2122
神戸ワシントンビル1F

サウンドイン キヤンディ
中央区北長狭通1-21-15 ☎ 392-3606
ニューアンカビル3F

スタンド グラムール
生田新岸ビル地階 ☎ 331-4637

サロント
中央区中山手通1-23-10 ☎ 242-3567
モンシャトコトブキビル

カクテルラウンジ サヴォイ
高架山側 テキの店北 ☎ 331-2615

LOUNGE コリナドーロ
中央区中山手通1-22-13 ☎ 222-5470
ビルサイドテラス1F

ミュージック・ラウンジ サントノーレ
トアロード店 中央区下山手通2-5-6 ☎ 391-3822
北野店 中央区中山手通2-22-10 大和ナイトプラザF ☎ 221-3886

スタンド 千里
中央区下山手通2-11-1 ☎ 331-4730
K.S.Mビル1F

畫舌洞でつなさん
中央区北長狭通1-5-12 ☎ 331-6778

STAND マシユケナダ
中央区中山手通1-4-6 ☎ 331-5587

メンバーズ モンテカルロ
中央区中山手通1-7-6 ☎ 391-0081
ラーワードビル1F
中山手通1 マンソンビル1F ☎ 391-8941
グラントリ 中山手通1 ニュー友羅ビル1F ☎ 391-4406

WINE & 酒 夢猫
中央区中山手通1-13-14 ☎ 332-3308
神戸酒販ビル2F

末広光夫の ティファニー
中央区中山手通1-21-13 ☎ 241-1771

珍地理屋
中央区中山手通1-22-10 ☎ 242-0288
大和ナイトプラザ1F

S N A C K プチおるごーる
中央区中山手通2-11-1 ☎ 332-2680
K.S.Mビル2F

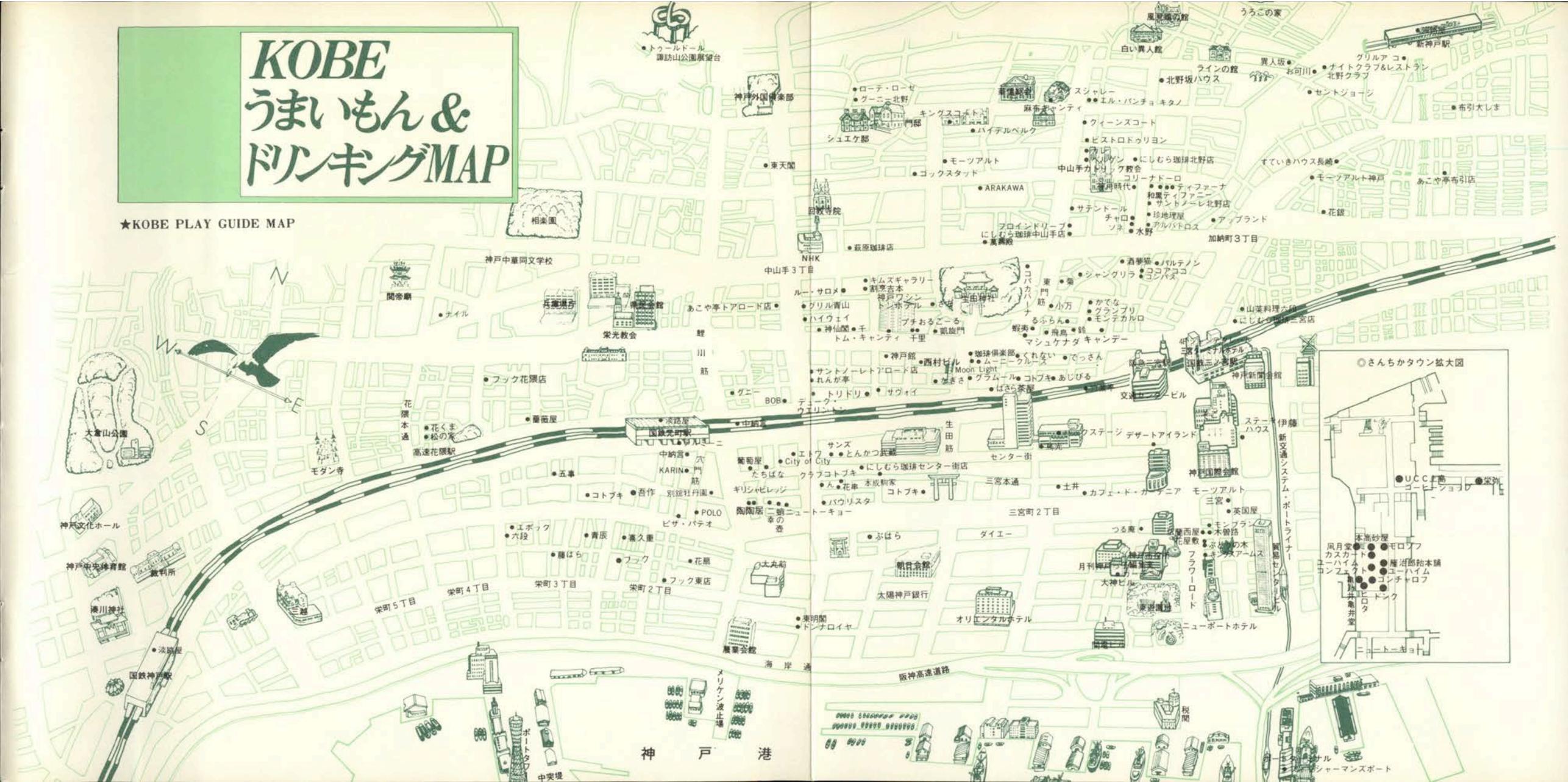
レジャービル 西村ビル
中央区北長狭通2-12-10(生田筋) スーパーステーション
ランダムハイスクレーブ 虎達坊 楽珍
エスカイクラブ

スタンド かてな
中央区中山手通1-7-10 英健ビル1F ☎ 331-1316

LOUNGE パルテノン
中央区加納町4-8-13高橋ビル3F ☎ 391-4123

KOBE うまいもん& ドリンクMAP

★KOBE PLAY GUIDE MAP



A HAPPY WEDDING



後悔だけはさせないよ
今井 静夫・しのぶ夫妻

(昭和59年3月18日挙式
於阪神平安閣)

しのぶさんが静夫さんとの結婚を決意したのは、六甲ドライブ中のこと。2人が知りあつて2ヶ月目の夏の日「これ!」といつて彼が差しだしたプレゼントを開けてしのぶさんは大感激。いつのまに調べたのか彼女の指にぴつたりのイヤの指輪が手の中に輝いていたとか。ハネムーンはヨーロッパへと旅立つていきました。

総合結婚式場



平安閣

神戸／神戸市兵庫区新開地3丁目2-15
阪神／尼崎市昭和通5丁目182

サンケイチのサンサンクド
☎(078) 351-3390
☎(06) 413-3303代

KOBE
HEIANKAKU



HANSHIN
HEIANKAKU





・パンの歴史をつたえる

カスカード

門戸厄神駅前店 ☎ 0798-53-1033

カスカードのパンは、女子大生・主婦と年令をとわずに、おいしさを満喫していただけます。



太田べつ甲店

・べつ甲

元町1番街山街 ☎ 331-6195

ネットレスとイヤリングのペアード
いかがですか。趣きが一味違ったネット
レスは大変好評です。



・鉄板焼・生スパゲティ・ミニしゃぶ・喫茶

グリルアソ

中央区生田町1-4-20 ☎ 242-2020

「おいしいわ」を連発の中川真弓さんは
「ぼくらは怪しいサラリーマン」で人気。
4月から朝日「生クイズ」夫婦でドン」



杏 アンズ

・宝飾・アクセサリ・雑貨

センター・プラザ1F ☎ 332-3907

5月で7周年を迎える杏です。ウッドネックレスなど、5月セールには春夏物もふんだんに揃えています。



祝'84神戸まつり

SHOPPING

WUWA WUWA SANBA!!

5月18日前夜祭

5月19日各区のおまつり

5月20日メインフェステイバル

花と海と太陽のKOBEの街へ



マーキュリー
トアロード・丸山前 **☎ 331-7857**
・レディスファッションハウス
新しく生まれ変わったパセリオショ
ップ「マーキュリー」。シンプルな店内も
ファション感覚が一杯です。



神戸国際会館 3F
☎ 231-3575
ダンビルのグリーンカラーであしら
つた阪神の平田選手愛用のブレザー。
アダムGは5月で10周年を迎えます。



トアロード・丸山前 **☎ 331-1309**
・画材・額縁
雪山とバラのイメージが、人の暖か
い心に響いてきます。白きアートをど
うぞあなたのお室に。



トアロード **☎ 332-2325**
イタリー製のピエロの壁かけ。おど
けたピエロは、どこまでも夢を与えつ
けてくれます。(赤・紺の2色あり)

アダムG(岡田巖)

オーダーメイド・紳士服

力ギ屋金物店

・建具・家具金物・家庭用品

“味道楽”にうってつけ

テレビ大阪で4月から始まった新番組“ちょっと味道楽”に神戸元町別館牡丹園が登場した。食通の国会議員、中山正暉氏がホスト役で各界の著名人が推薦する京阪神のうまいもんの店を紹介するという趣向で、この日は女優野川由美子さんの推薦。王鮑恵美夫人とおしゃべりを楽しみながら、牡丹園の名物料理を味わって頂いた。ミセスの食べ歩きには大いに参考になりそうです。（放映／4月21日（土）10:45AM～11:00AM）



当店は本店も支店もございません！

— 広東料理 —
神戸元町 別館牡丹園

元町通1丁目 協和銀行北側小路西へ入る
☎331-5790・6611 11AM～8:30PM 第3水曜休（但し8、12月は除く）

神戸のよさが元町に…



神戸三越



元町商店街



大丸前商店会



大丸神戸店
一
グ
ル
ー
プ



シャ・バルテノン宮殿の美学が生きるドリンクイングース。アダルトムード漂う中で憩のひとときを。
ヤングは女性￥2000 男性￥3000で飲み放題(6PM~8PM)

 Parthenon
パルテノン

中央区加納町4-8-13 高橋ビル3F
391-4123 6:00PM~1:00AM 日祝休(パーティ予約受)



ステーキの社交場。ワインの香りと肉のうまさに語ら
渾む。神戸のハイソサエティが集うステーキハウス

 ステーキハウス
伊藤

中央区御幸通7-1-20 (大信ビル8F)
AM11:30~PM9:30 年中無休 ☎232-3031



フィッシャマンズポートにまた一つ名物が生まれました。
シェフ特製デザート<ストロベリータルト>
ババロアをパイに添えて南国のフルーツをあしらいました。



ロマンチックな港のレストラン
フィッシャマンズ・ポート

ポートライナー・ポートターミナル駅ビル内
☎331-0301~2 月曜日定休



今宵のカクテルラウンジは酔いと会話がリフレクション。
多彩なドリンクがハートの中に蒼い錨を沈めるかのよう。

蒼い錨

中央区北長狭通1-21-15 生田新道レンガ筋角
ニューアンカービル地下 ☎331-7173

The moon is the same moon above you, aglow with its cool evening light
But shining at Night in Kobe, never does it shine so bright.

M A Y I N T O W N

NIGHT & DAY

T
A
S
T
E
—
F
E
R
E
B
E



Always Keep Drinking Spirits in Our Life!
Yes, The Drinking is My Way of Life-NOW.

Piano Hall
BACKSTAGE

中央区三宮町1 さんプラザ10F サンロイヤル
☎332-0230 第1,3月曜休

Coffee Time 11:00~6:00 Whisky Time 6:00~12:00



初夏の心地よい風に乗って気分はルンルン。あま~い甘いキャンデーみたいにハッピーな酔いと音楽をあなたに。

SOUND INN
キャンディー

中央区北長狭通1-21-15 生田新道レンガ筋角
ニューアンカービル3F ☎ 392-3606



夙川女子短期大学の同期の桜(娘)です。卒業して3年、私たちの友情もここのお店も変わりなく嬉しい限り。

**JAZZ & WHISKY HOUSE
SATIN DOLL.**

中央区中山手通1 富士産業ビル1F
☎242-0100 無休



厚い鉄板で、材料を重ね、じっくり焼きあげるウワサの広島流お好み焼。1926年型Tフォードがお待ちします。

 **広島お好み焼きバブ
Tフォードハウス**
中央区元町通1-14-2 明松ビル1F
☎331-5830

地域コミュニティの中に生きる遊戯スペース



1階は、HOGARAKA(PACHINCO)
2階は、関西棋院灘支部、水道筋囲碁クラブ
など明るく健康的な地域コミュニティの中に
生きる遊戯スペースとして役立っています。

HOGARAKA・灘区水道筋2丁目16

店舗のことなら
企画・設計・施工



INTERIOR DESIGN
MITSUWA

〒651 神戸市中央区割塚通5丁目2の18
上村ビル内
電話 神戸 (078) 222-2011(代)

今年は、神戸にも春の訪れが遅く、例年にはない春雪に、コートの襟を立てる日が多くなった。そういう日々のなかで、どうやら春の気配を感じられる三月一六日の夕べ、さわやかで心温まる一つの集いがあった。エッセイスト・吉村由美さんの出版を祝う会が、神戸市内の中国料理店で開かれたのだ。

吉村由美さんは、すでに昨年の五月に、エッセイ集『魅せられし時のために』を神戸新聞出版センターから上梓し、小誌や『グリーンライフこうべ』などにエッセイ寄せられ、その言葉に対する歎しさと、美しく、かつ、適格な表現は、多くの人たちに深い感動を与えていた。

その後、多忙な中で執筆活動をつづけられ、このほど、PHP研究所から『大学入試の決め手・国語力をつける法』(680円)が刊行され、それを記念する会の開催となつたものだ。

この本は、推薦のことばで、外山滋比古お茶の水女子大学教授が書かれたように、『受験勉強を学問としてとらえる』姿勢が貫しており、単なる受験生向けの学習参考書というよりも、一つの作品と言ふべき好著である。

この日、東京からかけつけたPHP研究所第一出版部編集長の川越森雄さん、同じく出版担当の真

郎栄一さんがそれぞれ挨拶をしたあと、吉村さんの恩師である水谷昭夫関西学院大学教授から『粗野で無法な言葉の氾濫する今、吉村さんの言葉は珠玉です。振り向かないで歩きつづけて欲しい』とのメッセージが寄せられた。

来賓の挨拶が終ったところで、吉村さんが壇上に立ち、物静かに出席者に語りかけた。

「精いっぱい日頃から考えていたことを書きました。小さな宝石箱から宝石を一つ二つ取り出したような気持ちで、まだまだ書きたいことがあります。出来るだけ質のいい仕事をしたいと思っています。それには自分のなかにパッションとして燃えあがるものがないといけません。情熱をもち人を愛せることが出来るなら、それは素晴らしいことです。心をこめた青春はそうたやすくは『びるものではない』。これは私の好きな言葉です。心をこめて生きて、ヒューマンな人間愛をもつて真理を愛す。これが学問です。人は温かな心を、自分には厳しく。そうであるならそれは幾つになつても青春です。私はこれからも日々学ぶことを若い人に教えない。もの書きである自分と学問に情熱をぶつける自分。の二つの仕事を平行してやって行きたいと思つています」

温かな拍手がいつまでもこの夜のヒロインに送られていた……。



吉村さんを囲んで心温かな人たちが集つた



出版を記念して祝杯があげられた(右端が吉村さん)

吉村 由美 出版記念会

—若者へ贈る愛のメッセージ—

NEUE

MODE

MÄRCHEN



1991放日記

篠原順子(スチリスト)

パリの街にも、マクドナルドやピツツア、フライドチキンなどのファーストフードがすいぶん目につく、手軽でスピーディー、イージーさが若者に受けている様だ。グレイッシュでハーフトーンの街の風景とはチグハグなカラフルな看板が異様な感じ。そのうちナント力弁当やジュース、ビールの自動販売機が現われるのは?どこに行つても同じではつまらない気がする。

どっしりとした石の建物と石畳に、コカ・コーラやハンバーガーは似合わない。

古いパリが残っているうちのひとつとして、モンマルトルの丘がある。かなり観光コースになっていて人が多いが、少し裏に入るとひっそりと静かな、古い古いパリがある。

はずれた細い路地の、剥げ落ちた壁、くずれ落ちそうな手すり、それでもきれいに磨きこまれた窓のカラス、

アンティックなレースのカーテン、道ゆく黒い服のおばあさん……絵になる。長いフランスパンにハムをはさんだ大きなサンドイッチや香ばしい焼栗、甘いクレープの香り……。やはりこの方がピン、と来る。たまに海の向うからやって来る我々の勝手な思いかも……。古き佳き、セピア色の写真のように、このままであってほしい。